



Chatterbox V

—4人が重ねるイメージと行為—

2025年3月31日(月)～4月5日(土)



竹田 あけみ

Akemi Takeda

ギャラリー 檜 B

飯沼 知寿子

Chizu Iinuma

ギャラリー 檜 C

コスター 理穂

Riho Coster

ギャラリー 檜 e

木村 瞳

Hitomi Kimura

ギャラリー 檜 F

飯沼 Chatteboxは2020年に始まりました。女性作家達の独立した展示と、制作やジェンダー¹に纏わる座談の記録冊子から成るこの展覧会は、参加作家をはじめ来場者や読者の方々に、語ることを促してきました。まだ自身の語彙にないこと、これまで喉元まで上がってきた引つ込めてしまったこと。言葉にならない喃語のような言葉と共に自身や表現と向き合う場になるよう願ってきました。5回目の最終回は木村瞳さん、コスター理穂さん、竹田あけみさんと互いの作品の資料を囲んでおしゃべりします。

* * * * *

布による表現

コスター 作品にガーゼを使い始めたのは、留学した先のモロッコに画材がなくて、紙っていったらもう1種類。それで薬局に行つて見つけたのが、荒いガーゼみたいな包帯だったんです。ちょっと使えるかなって。これは2022年、中2の娘に個展を見せて「私、ちゃんと頑張ってるからあなたも受験頑張るなさいよ」っていうメッセージを込めたものもありました。こちの作品は知人から譲り受けたインド綿で、モノとしてすごく強かったので洗ったり漂白したり、手に馴染むようにして使いました。柄と自分の手仕事をどう活かすかが一つの課題になっていて。

木村 色々な布を継ぎはぎに縫い合わせてるんですか？

コスター 一枚の布なんですけど漂白しす

ぎてボロボロになっちゃったんですよ。どうしようってなった時に、繋ぎ合わせればいいかなって。それまでガーゼを貼り合わせてたのを縫い合わせるのに変えたんですけど、重ねて描く行為は変わってない気がします。貼り合わせた上に線を描くのを、糸で線を描くようにしたら新鮮で、少しずつ縫う行為が増えていきました。

飯沼 20年くらいまでは四角い絵画の意識が感じられるけど、最近の作品はもうちよつとモノに近いですね。

竹田 洋服とか、既製品に手を加えて。

コスター 自分の中では平面、立体っていう隔たりはないんですけど、最近やっぱり立体的な仕事が増えてきて。

飯沼 写真とか映像もそうでしょうけど、絵ってフレームの四角に規定されるじゃないですか。ガーゼや服そのものを使うことで、そこから解放される意識ってありますか？

コスター あるのかもじゃないですね。服でいうと私、型紙があると気持ちいって、着て。私の中では、服なんて型紙なくてもできちゃうって感じなんです。

一同 おー！

コスター もともと服飾デザイナーをしてた母が裁縫で使うあの型紙が、ほんと理解できないっていうのかな。

飯沼 コスターさんも裁縫は得意ですか？

コスター ないない。家庭科の宿題は全部母にやってもらってたし。10歳くらいには反抗期で「母みたいになりたくない」とか思ってた。ミシンではもう絶対に勝てないし、嫌だなんて。

飯沼 お母さんとの関係性であえて避けちゃう？

コスター そうそう。だけど手縫いは作ってる実感があって、子どもの靴下とかズボンを繕うのは好きでした。

木村 資料を見ると身体性をすごく感じます。洋服が身体に纏う一枚の皮膚みたいな感覚。

コスター そうですね。昔から、何で入って布で表現するんだろうって思ってた。紛争地帯で敵の国旗を燃やしたり、アフリカではターバンの色でアイデンティティを示す民族がいたり。まあ、生まれてきたらくるむわけですよ。死んだ方もくるまれて、人は裸では生きていけない。それで、布の周辺で仕事をしたら本質的なものが見えるんじゃないかって。自分と外を隔てるライン、これって何だろうって思うんです。

飯沼 隔てるラインでもあるし、内と外を行き交えるようにする媒体なのかも。

木村 形がない精神的なものを見るようにする器とか、内と外を隔てる一枚の皮膚とか、いろんなイメージが布にはあるんですね。

コスター あと、手に棘が刺さると「何でこんなちっちゃいものに翻弄されるんだろう」って、それが嫌でした。普段は意識しないのに、棘が刺さっただけでそこに手がある意識に支配されるっていうのかな。…痛みって自分を考えさせられる、自分を見失わないための重要な要素だとも思う。だから痛みと皮膚感覚と布、全てが繋がってる。

木村 痛みっていうのは見た時に感じます。

1. 社会的・文化的に規定される男らしさ・女らしさなどの性別の差や性別による役割。 2. 日本では印象、心象の意味での使用が一般的。本来は画像を指し、美術の文脈ではどちらの意味でも使用される。

きれいなんですけど血が滲んだような感じ。赤って女性と身体性とか、そういう表現でも象徴的な色だなんてすごく感じます。私は初期の映像で生と死がテーマとしてぼんやりあったので、血のイメージもある赤はこだわってました。

コスター 血液とか、体液も意識してるかな。この赤はヘナで、乾くとボロボロ落ちてしまふんですけど、形がなくなつたとしてそれもいいかなって。完璧じゃなくてもいい。

木村 変化してもいい。

コスター そう、受け入れられるようになった。自分の体も日に日に白髪が増えて体力的な衰えを感じて、前はそれがすごく悲しかったんです。でも今は何だろうな……「あ、地球や宇宙と会話してるんだ」って。解放的っていうか、そういう喜びみたいな方が大きくなつて、ちよつと楽になつたかな。

重ねるイメージ

飯沼 竹田さんは座談会の為に、ニューヨークから来てくださったいました。

竹田 この「New Landscape」は、自分の写真をトランスファー¹してその周りを描いていくシリーズです。トランスファーペーパー²という特別な紙に写真などのイメージを打ち出して、アイロンをかけるとTシャツなどに刷れるんですね。私はそれを紙に写してるわけ。昔シルクスクリーンをやつたからそれに一番近かつたし、もうエディション³を作る必要もないから。20年近く前、仕事や子育てで

できたブランクから立ちあがつたところで、鉛筆だけのドローイング³をしてたんです。できるだけミマムな形で空間を表したいっていうので。長年人体を描くうちに全体よりも一部だけ描きたくなつて、形もどんどん抽象的になつていったんですね。

飯沼 ブランクの間もモデルさんをドローイングなさつていたそうですけど、その蓄積からこの独特な形が生まれたんですか？

竹田 ある程度ね。そのうちにトランスファーした写真と自分のドローイング、好きなものの二つを強引に合せてみて。始めはグリッド状に並べてたのが、だんだんグリッドの枠が取れていつて一つの風景になつていったんです。それから色鉛筆も使い始めて。

コスター すごい鮮やか。

木村 変化のプロセスが明確ですね。

竹田 その間に、いろんなテーマが出てきました。例えば毎年誘われて出品する「PEACE」のびじう展覧会。

飯沼 この黒い丸、たくさんの粒子が飛んでいるような、これも写真ですか？この丸に惹かれますね。

竹田 そうなの、抽象の形って面白い。力があるのね。これは写真のイメージを打ち出したトランスファーペーパー²を、小さな丸に切つてアイロンをかけてます。

飯沼 こっちは原子力のマークですね。

竹田 冷戦中、アメリカにも原爆が来るかもつていうので、シেলターのシステムが作られたんですね。このマークが学校とか集合住宅の1階にあつて、何かの時はここに入りなさいと。私が1976年にニューヨークに渡つ

てから、それを至る所で目にして結構興味をもつて撮影してたわけです。もうあんまりないんですけど、古い建物にはまだそのままだ残ってます。60年代初めの遺物ですね。

飯沼 3・11以降、美術の中でこのマークをよく見るようになりました。

竹田 そうですね、もう一回原子力発電所なんか話題になつて。2016年になつて、撮り溜めてあつたマークのイメージを出してきて、どんどん重ねていったんです。その時に「並べなくても重ねればいいんだ」って。これが反原発シリーズです。

木村 その時代の景色が自然と切り取られてますよね。

飯沼 しかも3・11以降にそのマークを入れることで、過去のシেলターの意味と現在の原子力や原発の問題の両方が作品に含まれる。幾つものレイヤー⁴をもっているわけですよ。

竹田 原爆を考える時に日本では広島や長崎、せいぜい第五福竜丸⁵なんだけど、南太平洋やアメリカの砂漠で散々実験したこと汚染されてるわけですよ。そういうことは誰も言わない。何もないように見えてもそういう問題を常に引きずつていて。つまり原爆を落としたアメリカ政府がその怖さを一番よく知つていて、それで冷戦の時に一生懸命シেলターを作つたわけですよ。だからといって原爆をなくすわけでもなく、未だに各国が持つてる。私達はそういう不安な所で暮らしてるわけです。日本だって原発にこだわ

るのは、どこかで核兵器を作りたいから。
飯沼 むしろ廃炉にする技術の最先端に

1. 転写、トレース。文中の技法は熱により印刷した像を転写するヒートトランスファーのこと。 2. 同じ作品を複数製作可能な版画において、作品の品質や価値を担保する為に作者が定める限定部数。 3. 線を引く(draw)行為に重きを置く線画のこと。構造的な絵画に対し、イメージや感情などを引き出す(draw)即興的または習作的なものを指す場合もある。 4. 層。または層を重ねること。

なつてほしい。

竹田 それができないまま安いからなんて言つて作つていく。どうかしてますね。

素材のコレクター

竹田 こっちはボロボロの壁や影、落書きとか錆の写真。錆つていうのはすごく惹かれるのね。コ罗纳で人のいなくなつた街なかで、たくさん撮りました。そんなのを集めて、ある意味コレクターですよ。

飯沼 写真は作品の素材なんですね。

竹田 私の場合ね。だから「カメラは何使ってるんですか?」って聞いてきた人に「iPhoneだと言つたら目をむかれちゃつて。でも私に芸術写真を撮ろうという気持ちはないから。取材であつてね。」

木村 風景の中で引つかるものを撮つておいて、絵画的なものに構成し直すような意識つてありますか?

竹田 やつぱり自然にしてますよね。

飯沼 たくさんの素材から選びきれない気がする。全部パソコンの上でやるんですか?

竹田 私ね、パソコンの方がどんどん進化しちゃつてよく使いこなせないのよね。手作業です。イメージを打ち出したトランスファーペーパーを切つて、アイロンをかけると下に写るじゃない?だから、そうやって画面を作つていくわけ。何か、やつてもやつても終わらない作業みたいな。

飯沼 意外にアナログだし、写真というよりはやつぱり版画なんですね。

竹田 一種のモノプリントです。

コスター さっきのコレクターつていう言葉、私はしっくりくるな。パッチワークに近いのかもしれない。そのコレクショント、私なら着古した服とか端切れなんですよ。昔のお坊さんが、襷や傷みで要らなくなつたきれを集めて縫い合わせ、袈裟にしたそうなんです。「糞掃衣(ふんそうゐ)」つて言つて、今も重要文化財として大事にされてる。その、見捨てられたものから何かを作る感性って人間に与えられた能力だつて、感銘を受けたんです。自分も人間として生まれてきたならばそういった感性で作品を作りた

い。私が使うものつて、自分が着古したものとか穴のあいたシャツ、子ども達のマスクとか、結局誰も使わなかつたアベノマスク(笑)。

木村 ありましたね。

飯沼 骨董市とか蚤の市は好きですか?

コスター たぶん好きだと思ふ。でも責任をもつて活かしたいから、あまり物を増やしたくない(笑)。

竹田 この「Heige」は家族アルバムの写真とか、思い出の物なんかの写真を重ねたシリーズです。これが父方で、これは母方。

飯沼 面白いですね、家族写真の他にも地図、漢文とかお皿、いろんな画像が構成されていて。

木村 ご家族に関係するもののイメージなんです。

竹田 7、8年前、祖先について調べてたら、曾祖母の大変な人生を知ったんです。彼女は明治維新手前の生まれで、花巻で最初の結婚をして北海道で2回目の結婚、私の祖

母が生まれる前に旦那さんが事故で亡くなつちゃつたの。赤ん坊の祖母は養女にやられて、曾祖母はまた結婚せざるをえずに結婚して2人子どもを産むけれど、またその旦那さんが亡くなつちゃうわけ(笑)。未亡人²だからまあ後盾もないし、結局苦勞して親戚を頼りに沖繩まで行つて教師をしたことが分かつたんです。そういう足跡を追うのが面白くて。

飯沼 女性は結婚しないと生きていけない、辛い時代ですね。「未亡人」つて、まだ亡くない人つていう意味なんですよ。夫を亡くすとまだ生きている妻の名前が墓誌に赤く記される風習があるのを高校生生の時に知つてびっくりしたんです。最近それを墓地で見つけて。それが、漢字は違うけどデジッさんだったんです。

一同 (笑)。

コスター じゃあ、そこに入れたこと?どうちにも取れますね、いい意味と悪い意味。

飯沼 まあ、良く捉えるのは追い出されずに婚家にいられるつてことでしょ。だけれどそれつて家制度³が強く女性⁴の自立が困難な社会だからにすぎない。

絶望の先の「信じること」

木村 初個展は大学院修了時の2011年、またモノタイプ⁴の作品を作りました。映像の個展はその翌年からです。

竹田 どうして版画から映像に行つたんですか?

1. 同じイメージが1枚のみ印刷可能な一点物の版画。 2. 古代中国において、夫を亡くして殉死すべきところを生き延びる女性の自称の謙遜表現だったものが、そうした女性を指す言葉となった。現在は「ジェンダー差別用語」とされている。 3. 明治民法により制定された父系の家族制度。家は戸主と家族で構成され、戸主が家の統率権限をもつ。戦後の民法改正で廃止されたものの、現在も父系の氏と墓の継承は家制度の名残として存続している。 4. 1.に同じ。

木村 自分の表現したい感覚みたいなものが、ドローイングでは直接描けるんですけど、それを版画に置き換えるのが自分にある限りフィットしなくて。

飯沼 大学院まで版画だったんでしょう？

木村 そうなんです（笑）。私、すごく諦め悪いんで、でも大学を出てプレス機が身近じゃなくなるのを機に、前から興味のあった映像をやってみようと思って、イメーじフオールム映像研究所で1年間学びました。

飯沼 作品に出てくる女性性は全部木村さんなんですか？

木村 基本的に私がやっています。単純に頼める人がいなかったのと、私が映像を始める時、ビデオ・テープ・リストの影響は結構受けたんです。彼女も自分の身体を使って演じてるので、そういうのもあったかも。これが15年、この頃は割と抽象的な作品を手探りで感覚的に作っていました。（映像再生）

飯沼 …泣けてきちゃった。

木村 えっ！私にとつては、自分を安心させる為の子守唄みたいなイメージで作っていて。色彩とか身体、生と死への興味が元々あったんですけど、大学を出る時にちょうど東日本大震災があつて…。

一同 あー。

木村 不安とか安心についてすごく考えてた時期でした。映像制作は本当に何も分かんなくて「何かいぞ」っていうものを動画で撮り溜めてました。それをパソコンの編集ソフトでいっぱい並べるんですよ。完成形とか全然分らないままいっぱい重ねて。

飯沼 動画をレイヤーにして？

木村 そうですね。独学で編集してたので、すごい独特な作り方だったと思います。竹田さんが撮影したイメージを手で並び替えながら重ねて作るみたいに、私もパソコン上で動画のレイヤーの並び替えを繰り返して、作品のイメージを作ってたんですよ。

飯沼 今の作品で口ずさんでいるハミングは、メロディーもいいですね。パソコンで作った音と合わせたのがすごくいい。

木村 本当ですか？こういうのも何か思いついた歌なんですけど。

竹田 そんな風に聞こえない。なかなか質が高いですね。

木村 ありがとうございます。16年の個展ではギャラリーの壁に簡易的に窓を作つて、プロジェクトで映像を映しました。誰もかもっている、人に見せたくないような内面、それが窓を通して見えてくるという展示です。窓の向こうに自分を受け入れられずに苦しむ人が映し出されていて、その吐露が語りになっています。（映像再生）

飯沼 これ、唇ですか？

木村 そうです。レースのカーテンとか唇の動画を重ねるうちに、窓の向こうにホラーチックな唇が浮かぶイメージが最初にでき、そこから作っていった感じです。見ていて、自分でも息苦しくなります。

コスター 10代の、悩める若者達にいいんじゃないかと思えます。そのダークな部分はどこから来るんだろう。

木村 たぶん性格なのかなー。幼稚園生の時から「将来どうやって生きていけばいいんだろう」とか悶々と考えちゃうタイプでした

（笑）。絵を描くのは好きで、小学校2年生の文集で将来の夢に本当は画家って書きたかったのに、なぜかパン屋って。「絵描きじゃ食っていけない」って言われる気がしたんですよ。ちょっと捻じれてるっていうか、そういう不安を感じやすいところを抱えて成長して。今の作品はすごくダークなんですけど、自分と一旦向き合う時期だったのかな。たぶん自分を受け入れる為に：見せることで受け入れられるようになる、そういう意識はあったかもしれないです。

飯沼 何かモヤモヤしたものを抱えていて、すごく瑣末なようにも感じるけどそれを一回出したい、そんな感覚なのかな。そういうプロセスってきつと大事なんですよ。

木村 20年の個展ではコロナ禍をきっかけに制作した映像を展示しました。コロナのパンデミックで私はその：絶望してしまつて。その中で月光浴のテーマが出てきたんです。ある時、月の光が邪気を追い払うとか、ネガティブな感情やエネルギーを洗い流すっていう話があるのを知ったんですね。それから月の光について考えるようになって、私が友人と月光浴をしに行くのを映像作品にしました。今から思うと、信じる力を取り戻す為というか：。絶望の中をどうやって生きていくか考えた時、信じていうことがすごく必要な力だったのかなと。こっちは、その後制作した「信じることのレッスン」っていう写真のシリーズです。この時は室内で月光浴の様子を撮影しました。

飯沼 目に見えないものを信じてること、前におっしゃってましたよね。

もします。

産む女と産まない女の間

木村 そうですね。以前は、このまますごい危機的なことは起こらずに、この状態がなんとなく続いていくと思ってたんです。でも震災の時、世界に対する不安がぼんやりでてきて。コロナ禍の感染者へのネット上のヘイトとか人種差別のデモや事件、今も続いている戦争：同じ過ちを繰り返して、何も変わらないな。軽々しくも明るい未来が待っているとは言いたくないし、言わないでほしい。それでも生きていかないとけない。私は、個人的な理由から作品を作ってるんだ。でもコロナ禍に自ら命を絶ってしまった方のニュースがあったように、同じような絶望を感じてる人は多いんじゃないかとも思うんです。

コスター 私は「自分の為に作品を作る時代は終わった」って思うんです。輝かしい未来を思い描いてた21世紀は、蓋を開ければテロリズムに震災にコロナ、加えて地球温暖化の時代だった。そんな世界でのアーティストの使命って、人間の感性を呼び起こす作品を作ることだと思いませんか。アートは世界が続いていく可能性じゃないかって。

飯沼 私は、当事者性のある表現に惹かれます。だから自分の為の作品が誰かの為にもなっていくことを願っているかな。

木村 毎日たくさんさんの情報が目に入ってくるけれど、そうじゃなくても目に見えないもの、感覚とか直感を信じるということ。上手く言えないんですけど、それが自分が今生きてる世界に対する私の、ささやかな抵抗で。コロナ禍の絶望の中、そういう何かを信じれたことは救いだっような気が

飯沼 学生の時はずわめきとかちらつき、そういうイメージを求めて描いていくことも、言葉のドロイングを重ねていくことでできるちらつきが、しつくりきています。竹田 書いてある字についていうのは、あなただけが知っているの？

飯沼 そうですけど言葉の、発話のイメージとして描いていて、テキストは作品の内容と無関係なんです。筆の感覚に集中する為に英語のテキスト自体は暗記してあつて、自分の中の空気をただ調節して出す感じ。

木村 ちなみにそのテキストはどういったものから引用しますか？

飯沼 それはですね：歌の詞です。木村 あー、音楽的なんですね。面白いですね、想像する。

コスター ちょっとと木村さんのハミングと近いものがあるかもしれない。

飯沼 暗記できるのも歌だからでしょうね。2022年はノイズも気になっていて。テレビのノイズでありましたよね。

木村 あの砂嵐ですよね。

飯沼 そう、ちょうどフルクサスのメンバーだった久保田成子²の展覧会³を見たイメージもあつて。それから私が住む市で起きた、母親が幼児を車に放置して熱中症で死なせた事件⁴が大きく報道されたんです。

木村 あー、ありました。

飯沼 モニターに映る、21歳のシングルマザーだけを非難する社会、私はこの社会に怒りを感じていました。その母親は自分だったかもしれない。でも私はそうならないように頭を使って、ただリスクを避けて生きてきたんですよ。そうできなかった女性が産まざるを得ない、十分なサポートのない子育てをしなきゃならない、それは全然他人事じゃない。この2枚の絵には実は自作の日本語の文章が潜んでいます。一つは子どもを死なせてしまった女性への：共感というか悲しみが、もう一つは自分もそうなり得たけどそれを避けて生きてきただけだったというような内容です。

コスター 具体的にはどういう方法で避けてきたんですか？

飯沼 変な男に引つかからないとか。一同（笑）。

飯沼 あと：子どもを産まないこともその一つだったと思うんですよね。

竹田 あー。

飯沼 私はどちらかというと母親みたいになりたい子どもだったんですよ。母と同じように23歳で結婚、子どもを2人産むことをイメージしてました。だけど20代になって、自分を生きることと子どもをもつことの両方が難しい社会だと分かった。絵で食べていけない限り、自分の表現と子育てを両立させるには経済的にパートナーに寄つてからなきゃならない。でもそれができる相手を好きになるわけじゃなかった。30代で好きになった人は親世代の人だったから、将来介護と子育てが重なるかもしれない。そういうリ

1. 1960年代に発生した 前衛芸術運動、またはその活動グループ。美術家、音楽家、デザイナーや詩人らによる活動は、演奏、パフォーマンス、展示、複製製作の印刷物やオブジェなど多岐にわたる。 2. ニューヨークを拠点に活動した美術家。1964年に渡米し、映像と彫刻を組み合わせた「ビデオ彫刻」の先駆者として国際的に評価された。(1935~2015) 3. 「Viva Video! 久保田成子展」東京都現代美術館、東京(2021~2022) 4. 2022年7月、神奈川県で2人の幼児を車内に放置し、熱中症で死亡させた母親が逮捕された。裁判の判決は、求刑懲役8年に対して懲役3年6か月の実刑とし、事件の原因を被告人の無知、未熟などによる危機意識の薄さにあるとした。

スクを避けてきたって納得してはいるけど、選択して諦めた未来だったと思います。

木村 諦めたっていう感覚の方が大きいですか？色々ただと思いますけど。

飯沼 そうですね。常に、目の前にいる人と一緒にいられる道を選んだつもりだけど。24年は妊娠をテーマにしている、妊娠した子宮の象徴として丸の、空っぽの子宮の象徴として三角の切り込みをキャンバスに入れています。産む女と産まない女の間にある溝を作るのは家父長制¹だと思っている。丸の方には「子をのぞむ女であればかんだん」三角の方には「生まない女の活用法」と自作のテキストを赤い糸で縫いつけました。これは男性優位の視線をイメージした言葉です。女性の活躍を謳いながらも、結局女性は消費されていることを指摘する意図でした。ただその展示を偶然見てくれた、50代くらいの女の人が「これを読んで共感しちゃうことが悲しくもありますね」って言ったんです。「若い頃はそう思っていたし、今思い返してみても自分には今の家庭をもつ道しか選べなかった、それで後悔していない」って。私と違うその人は、そうなんだと理解したのか……『虎と翼』²を見ている人いますか？

竹田 見てます。

飯沼 ニューヨークから!?この間「どの地獄で何と戦いたいかは彼女が決めることだ」っていう台詞があった。つまり、私は私の地獄を選んで戦っているけど、私の絵を見てくださいね。私自身は狭い視点でしか作品を作っていないけど、作品を通して別の価値観の

人と語れたことが貴重でした。

木村 変えようと思ってもなかなか変えられないものを、飯沼さんは表現されているのかな。絵画の一点透視図法³、ジェンダーの話題とか家父長制。最初に作品を見た時も、絵の中に空間があって彫刻家の絵にすごく近いなって思っただけですよ。チラチラする文字が重なって空間を埋め尽くすイメージがすごく印象的で。変えられない絶対的なものの中にあるたぐさんのノイズ⁴：身体で感じると社会的生きづらさが、視覚的に出ているのかなと思っ

飯沼 うーん、ノイズは生きづらさかもしれないけど、長い歴史の中で女性達が戦って言葉を出してきたことの積み重ね、その痕跡みたいに捉えています。だからキツそうに見えたとしても、私にとってはポジティブ。

ジェンダー

コスター 男性社会って言われている中で私と竹田さんって息子を育てていて、お二人はちょっと違うポジションじゃないですか。

飯沼 そこで線を引くんですね。

竹田 (笑)。

コスター いやそうじゃなくて、おなかにいるのが男の子だつて分かった時、私はアメリカの小児科医の本に「男の子を育てることは女の子を育てることよりも重要」って書いてあったのを思い出したんですね。仮に犯罪に及んだ時に社会に与える影響が大きいからって。じゃあ責任重大だなんて緊張したん

です。どういう男の子に育てたらいいか、どういう男性に育ってくれたら世の中が変わると思うかっていう新鮮な意見を聞きたい。

飯沼 …私だつたらまずその本を読んだ時に投げつけます。

コスター …その方が言うのは、犯罪を少なくするにはお母さん……いい子育てができる環境整備に投資をするべきっていう意味なんですか。

飯沼 結局それは母親への育児責任の押しつけだし、そもそも社会における男性の影響力を大前提にしていますよね。

竹田 私は男の子を育てるとか女の子を育てるとか、性別で違うとは思わないですね。
コスター あー、すごい意外。じゃあ何で彼はそう書いたんだろう。

飯沼 それは女性蔑視な人だからだと、私はそう思いますよ。

コスター でもその方は差別とかそういう方では一切ないんですね。

竹田 そういう発想がね。だって男の子向けとか女の子向けっておかしいじゃない。今時さ、男だって男じゃなくてもいいし、女に生まれたけれど10年先には男かもしれないとかさ、もう分からない時代。だからどうやったらいい男ができますとかいい女ができますって、そういう考えは私にはないです。

コスター なるほどねー。いや、でもそういう意見がくると思わなかった。ちよつと新鮮。

木村 もしかしてその方には男性のちよつと古い価値観に対する問題意識があつて、その上で考えて出てきた言葉なのかも。私の想像ですけど、その方はジェンダー差別するつ

1. 父系の家族制度において、家長が家族員を支配・統率する家族形態。また、このような原理に基づき、男性が支配的で特権的な地位を占める社会システム。 2. 2024年度前期放送のNHK「連続テレビ小説」。日本史上初めて法曹界に飛び込んだ女性の実話に基づくドラマ。 3. 遠近法の一つ。消失点の一つ持ち、手前から奥に向かう平行な線が全て消失点に向かうことで奥行きを表す。一つの固定的な視点から世界を見る方法。

制作を通してか#MeToo運動も

竹田 訊かれたらアーティストかな。テキス

でも日本でも取り上げられるよう

えー！50年前からあるわよ！

8

けど、その間だったのかな。

飯沼 日本のウーマン・リヴ¹は1970年、田中美津²さんの書いた「便所からの解放」というピラに始まっていて、それがおよそ55年前。女は男の母になるか性欲処理機になるしかない。どちらにせよ女は自分を生きることができない。そんな社会からの解放を求めた女性達が、女性達でどう生きるかを模索していつて。この間亡くなったんですよ。**竹田** え、亡くなったの？

飯沼 81歳でした。コスターさんが最近だと感じるのは、90年代後半から約20年、日本のフェミニズムが鎮静化させられていたからかも。私が学生だった2000年代後半、フェミニズムは過去のものとしておじさん達が揶揄する対象でした。#MeToo運動は17年から大きな動きを見せましたよね。ハリウッドの映画プロデューサーの性暴力告発の際に、多くの女性がSNSで#MeTooと共鳴し、連帯を広げて。日本では伊藤詩織³さんの強姦被害の告発と訴訟が始まりました。それまではフェミニストという言葉は避けられていた気がします。

竹田 結局、70年代に女性が総合職になれなかったのが85年の男女雇用機会均等法⁴で一応フェミニズムが勝った形に。だってそれまで女性には男性の補助職しかなかったわけでしょ。総合職に行ける道筋が立ったことで一応男女平等になって。そりゃ完全ではないけれど。

飯沼 でも現在のジェンダーギャップ指数⁵を見ると、日本の男女の経済格差はすごく大きいんですよ。

竹田 それはあれよ。私が思うに103万の壁なんかも。扶養家族を外れると税金や年金が多く取られるからそれ以上働かないっていうバカなシステム。その方が男社会には都合がいいっていうこと？アメリカでは、ある程度共稼ぎしないと収入がかなり限られた生活になるからみんな働く。そんなに扶養家族が優遇されてないし、自分の年金も自分がどれだけ払い込んだかで決まるから、働いてなければ損なわけですよ。一生の間、にそりや何年かはみんな休みますよ、子育てとか介護とかで。だけど個人として働けなかったら年金が出ないから。

飯沼 日本だと年金つて、個人というより夫婦でセットですよ。

竹田 そうそう、だからそれがないってこと。ただ結婚制度で、自分の年金額と連れたった人の年金額の半分を比べて高い方を貰えるというのはあります。でも社会が流動的なので結婚がいつまで続くかわからない(笑)。だからみんな一生懸命働くのね。それでもやっぱり、男女の賃金格差はアメリカでも大きいですよ。

女性作家の活躍とその影響

飯沼 以前、竹田さんが「ニューヨークに来るアーティストは女性が多い」っておっしゃってましたよね。

竹田 アーティストじゃなくても多いですよ、ニューヨークに来て住む女性は「結婚しないの？」とか言われる可能性はないわけだ

からね。

飯沼 日本から渡米した女性作家達を思い出します。草間彌生⁶にオノ・ヨーコ⁷に。草間彌生はジョージア・オキフ⁸に手紙を書いて、彼女の後押しで渡米しましたよね。木村 えー、そうなんですか。それは知らなかった。

飯沼 竹田さんはフルクサスの日本人女性アーティスト4人を取り上げた展覧会⁹をニューヨークで、覧になったそうですね。

竹田 久保田成子とオノ・ヨーコはずっとニューヨークじゃない？塩見充枝子¹⁰は音楽家として参加したけれど、少しして日本に帰ったわけ。斎藤陽子¹¹はニューヨークに来てからあちこち行つて今はドイツで活躍してる。多少新しい作品も出てたかな。四人四様の人生で非常に面白い展覧会でした。

飯沼 久保田成子は、映像をヴィデオ彫刻という形にしたのがユニークですよ。彼女は日本で一度個展をしたものの全く無視されるような状況で、こんな所でやっけていてもダメだとニューヨークに行っちゃった。

竹田 私もしヴィデオ作家としか知らなかったんだけど、亡くなった後のMoMA¹²での回顧展¹³はなかなか素晴らしい展覧会だったんですよ。1960年前後のニューヨークなんて白人男性のアーティストが主立っている中で、フルクサスはアジア人も女性も多かったんですよ。当時としては非常に開けたグループだったんですね、今から考えると。

飯沼 竹田さんがニューヨークに行らしたのが？

竹田 76年。フルクサスは話には聞いてたけ

5. スイスの非営利団体「世界経済フォーラム」が経済、教育、保健、政治の分野毎に各使用データより算出。2024年の日本の総合順位は146カ国中118位、経済部門は120位。 6. 前衛芸術家。水玉模様に覆われた作品を多く制作。1957年に渡米し、多様な作品やパフォーマンスで脚光を浴びた。(1929-) 7. 前衛芸術家、平和運動家。日米で育ち、美術や音楽など多様なメディアで表現。(1933-) 8. アメリカンモダニズムの代表的な画家。(1887-1986) 9. “Out of Bounds: Japanese Women Artists in Fluxus” Japan Society, N.Y. (2023-2024) 10. 現代音楽作曲家。音楽と視覚、言語表現の融合を追求。1964年に久保田成子と渡米。(1938-) 11. 現代美術家。1963年に渡米し、フルクサスの一員として活動。(1929-) 12. “The Museum of Modern Art”の略称。ニューヨーク近代美術館。 13. “Shigeko Kubota: Liquid Reality” MoMA, N.Y. (2021-2022)

れど、当時はそこまで知らなかった。

木村 既存の価値観からはみ出すとか壊すとか、そこが前衛¹の目的だからすごい熱気がありますよね。ああいう時代だからこそ生まれたものかもしれないし、かついいな。これは、私が2004年に美術館で観たオノ・ヨーコ展²の図録です。通つた美術予備校の課外授業でたまたま観たんです。まあ当時高校生で、美術っていうと絵画とか彫刻のイメージしかなかったのが衝撃的でした。特につの *Cut Piece* の映像……。

竹田 これ、すごいですよね。

木村 オノ・ヨーコに促された観客達が舞台上の彼女の服をハサミで切り取っていく……、本当にショッキングだったんです。それから、ただお尻をアッブで映してるのとか、裸体をハエが歩く映像とか、やっぱり前衛ですよね。あとビロロティ³のことは、高校生の時に偶然手に入れた『芸術新潮』で知りました。資生堂ギャラリーでの展覧会⁴の記事で、ちゃんと読み込んだのは大学生の時だと思えますけど、最初はこのうテクニストから興味をもつて。実際に見たのはこのか美術館で展示してた *Ever is Over All*。女性が路上の車の窓ガラスを樂しげに割り歩いていく、有名な映像作品です。

飯沼 私も学生の時に授業でその映像を見て、すごく印象的でした。

木村 自分が制作する上でフェミニズムをすごく意識してたわけではなかったんです。でも触れてはいて、自然と興味はもってましたね。

飯沼 美術館は今でこそ世界的にも女性の

作品を増やしていく動きになってきていますよね。若い人が女性作家の作品を美術館でたまたま見て影響を受けてっていうのは感動的、自分の生活の中にもふっと入ってくる状況になってきたんですね。

信じて待つ

飯沼 冒頭、コスターさんが受験前のお嬢さんに自分の展覧会を見せたお話がありましたね。日本での子育てで、母親になった人が個人としての自分を育てていくことが難しく思うと思います。だからコスターさんが、母親としてじゃなくて一人の個人としての姿をお嬢さんに見せるのはすごくいいなって。

コスター うーん、そこは信念みたいなものがあつて、普段は言うまいと思つても口うるさく言っちゃうんですよ。だけど美術に関しては、言わない。「私を見る」つてやってるつもり。……、子どもつて結局見えますよね。話は聞かないけど見てるんだらうな¹。

木村 難しいですよ。子育て経験のない私が言うのもおかしい気がしますが、娘さんは子どもから大人に成長してる最中だから、親としてできることはやって後はぐつとこらえて娘さんを信じるしかないのかって……。

コスター 信じて待つことがどれだけ難しいか、本当に日々感じています。ね、竹田さん？

竹田 それはやっぱり、うちは上の子は結婚して子供もいて私が何か言うこともないけれど、下の子が……。37歳で働いてはいるけ

れど、これからどうするんだらうって思いますが、すよね(笑)。期待しすぎてもいけないけれど言わないといけないのかな、でも言ってもしょうがないだらうなって……悩みますよ。

コスター でも黙ってるつてすごく難しくって……本当に言っちゃうんですけど。

飯沼 何を言っちゃうんですか？

コスター えー、だから言わせますか？

一同(笑)。

コスター お弁当箱洗え、部屋きれいにしろ、早く帰つてきなさい、とかそういうことですよね。門限過ぎても電話に出ないで「ごめん気づかなかった」つて言えばそれで済む。だけど1人で住んでるんじゃないんだから、生活の基本的なことはやってねつていう。何も学校で1位を取れつていうことじゃなくて。だけど最近「10代思春期は脳みそが発達段階だから自分でやるべきことが分かっててもできない」つてテレビで言ってたんです。「あー今、脳みそが発達してるんだ」と思つて最近はやっと……。(仏のジェスチャー)

一同(笑)。

飯沼 私は10代の頃、お弁当箱を洗うのが嫌で溜まっていって『風の谷のナウシカ』⁵の腐海状態に……。胞子が、みたいな。

コスター 胞子、分かりますよ、胞子。3週間前海外旅行から帰国しました。機内食のパン、まだ部屋にあります。「どうするんですか？ 観察しますか？」とか言つて。

飯沼 私も今はもうお弁当箱を溜めたりしないんですよ。だからあのー、いつかなんですよ(笑)。

木村 そういうことは私、一通り親に言わ

1. 前衛芸術、アヴァンギャルド。既存の芸術を否定し、革新的な表現をめざす芸術の総称。 2. 「YES オノ・ヨーコ」東京都現代美術館、東京(2004) 3. 「The Cake Is In Flames ビロロティ・リスト」資生堂ギャラリー、東京(2002) 4. 「SPEAK LOW ヴィデオ映像の詩人ビロロティは女と世界をうたう」『芸術新潮』2002年11月号、新潮社。 5. 宮崎駿(1941-)による漫画及びメディアミックス作品。アニメ情報誌『アニメージュ』で発表(1982-1994)。

れてました。当時は「うるさいな」って思ってたんですけど、一人暮らしを始めてほんと猛反省したっていうか。全然気づいてなかったですね、全部親がやってくれてたって。そう、そんなにこらえなくてもいいかもしれないし、そこが難しいですよ。

飯沼 いつかプラスになるかもしれないですもんね。ところで、前回のコスターさんの個展で大きなシャツの作品が壁に掛かっていましたよね。柄のシャツが漂白されて模様むらが美しい。真ん中あたりに刺し子があつて血みたいに赤い。その作品に何か飛ばしてできたような茶色いシミがあつて。

コスター それもカットして欲しいくらい。娘だつて読む：まあいいや。ありのままをね。この作品の目立たない所に茶色いシミがあつて。これ、喧嘩して娘に紅茶をかけた時にかったちやつたんですよ。

一同（笑）。

飯沼 それを聞いた時に、喧嘩の激しさにびっくりして。

コスター 激しくない。ただこうやってかけるだけです。それが、娘の後ろに畳んで置いてあつた作品にかかったんですよ。その日、午前中に美容院に行つてきれいにして、疲れた自分へのご褒美にスカルプケアをしてもらつて「あ、これでちよつと優しくなれそう」って思つたんです。なのに家に帰つたらそれで「うまくいかなんだな、優しくできなかった」って思つたのを覚えてる。

飯沼 そういうことが全部作品に入っているわけですよ。

コスター でも昔だったら許せなかった。シ

ミを洗つたと思うんですけど今は、こういう中に生まれた作品だからこれも作品の一部として出そうと思つて。

木村 何かすごく正直ですよ。

コスター 私が言いたいの、あれが初めてで最後つてこと。それから、かけたのもホットじゃないから安心してください。

一同（笑）。

コスター まず作品を作るっていうのが私の場合はあるので、問題があればそれを糧に制作ができるんですよ。これは恵まれてるんだと。でも木村さんが、信じる力っていうで作品を作つてのお話を聞いて「娘を信じて待つて」って言われたみたいだった（笑）。

木村 あーいいいや、全然そんなつもりじゃ……。
コスター こうしてお話ししてたら、展示の時に意外と共通点が出てくるかなーと思つてちよつと楽しみ。

* * * * *

飯沼 自分を始点に制作する作家の色々な意見が出合うことで新しく見えてくる、読む人が感じることもある。Chatterboxでそれを発信することで、更に広がっていくようにと願つてきました。座談会当日に話したことも打ち合わせで話したことも、一度口にすれば自分の語彙になります。皆さんの今後の活動でそれがずっと出てくるとしたら、Chatterboxが繋がっていくことになると思います。後は2026年に、これまで参加していただいた皆さんとで行う展覧会を、

最終形態として目指していきます。
竹田 楽しみにしてます。
飯沼 ありがとうございます。

Chatterbox V—4人が重ねるイメージと行為—
会期 2025年3月31日～4月5日
会場 ギャラリー檜

企画・制作 Chatterbox実行委員会
編集 飯沼知寿子
印刷・製本 株式会社グラフィック
発行 2025年3月

竹田 あけみ

B

神奈川県生まれ
1976年渡米、ニューヨーク在住
現代美術研究所、和光大学、パソンズスクールオブデザイン、ブラッドグラフィックセンターなどで学ぶ。

主な個展/二人展

- 2025.8 ナガサキピースミュージアム、長崎
- 2023 ギャラリーSIACCA、東京
- 2022 “Small Works 2018-2022” CCCS国際センター、ニューヨーク
- 2020 ギャラリー豆蔵、長野
- 2018 山岸きよみと2人展、ギャラリー松真館、長野
- “ほぼ同時” 鍋島正世との2人展、ギャラリー檜、東京
- 2017 “Recent Small Works” CCCS国際センター、ニューヨーク
- 2015 ギャラリー・オカベ、東京(’20)

主なグループ展

- 2022 “NY CONNECTION” ギャラリーSIACCA、東京(’23~’25)
- 2017 「年次展示会 SJAC」ギャラリー マックス(’18, ’23, ’24)、天理ギャラリー(’19, ’21, ’22)、ニューヨーク
- 2016 “PEACE” CCCS国際センター(’18, ’19, ’23, ’24)、ニューヨーク日系人会(’21) ギャラリー マックス(’22)、ニューヨーク
- 2014 「JAA ニューヨークで活躍する日本人・日系人美術家展覧会」ニューヨーク日系人会、ニューヨーク(’15~’19, ’21~’24)
- 2013 “Open Studio” Studio 34、ニューヨーク(’14~’19, ’23, ’24)
- 2012 「ちいさなアート展」ギャラリー松真館(’15, ’17, ’20, ’24)、長野、Studio 34(’15, ’17, ’25)、The Figure Works(’21)、ニューヨーク

Website: <https://akemitakeda.com/>

コスター 理徳

e

群馬県生まれ
2000 武蔵野美術大学造形学部油絵学科 卒業
2000~02 モロッコ国立美術学校
Institut National des Beaux-Arts Tetouan 留学

個展

- 2018 ギャラリー檜、東京(’20, ’22, ’24)
- 2017 キチジョウジギャラリー、東京
- 2006 なびす画廊、東京

グループ展

- 2024 「NAU21メンバー展」DESIGN FESTA GALLERY、東京
- 2023 「NAU21世紀美術連立展」国立新美術館(’24, ’25)
「本とアートの対話」ギャラリー檜、東京
- 2022 「ディストピア考」ギャラリー檜、東京
- 2021 「線と時間」ギャラリー檜、東京
- 2019 「晴れやかな諦念」ギャラリー檜、東京
- 2019 「一モノトーンによる」ギャラリー檜、東京
- 2005 「二人展」東京ジャーミイ、東京、
- 2004 「二人展」BLOOMMOON、東京
- 2004 fu's gallery、東京
- 2002 「二人展」ウダイヤギャラリー、モロッコ

その他

- 2018 絵本「つながりのプロセス」挿絵
- 2009 雑誌「おはよう奥さん」GAKKEN イラスト

飯沼 知寿子

C

1984 神奈川県生まれ
2008 第23回ホルベイン・スカラシップ奨学生
2010 東京造形大学大学院 造形研究科 修了

主な個展

- 2024 Chatterbox IV—4人で手繰る性と美術—
飯沼知寿子“Without Expecting”ギャラリー檜C、東京
- 2023 飯沼知寿子展「Silhouette 一言葉が満ちる空間で」
学習院女子大学文化交流ギャラリー、東京
- 2022 「断片集」ギャラリーいちょうの木、東京
Chatterbox III—変化を伴い持続する4人—
飯沼知寿子“Noise”ギャラリー檜B、東京
- 2021 Chatterbox II—交錯する4人の場面—
飯沼知寿子「点に在る」ギャラリー檜F、東京
- 2020 Chatterbox—4人の語りそれぞれの表現—
飯沼知寿子“Blind Spot”ギャラリー檜B、東京
- 2018 「明るさについて」Gallery & Café DODO、東京
- 2010 トキ・アートスペース、東京(’11~’13, ’16, ’17, ’20)

主なグループ展

- 2024 「遭遇」New Perspective on Contemporary Art from Korea and Japan「テゴツ美術館、ファソン(韓国)
- 2023 「原発NON!—de novo」ボルトリブレ デ・ノーヴォ、東京(’25)
- 2022 「第6回 八色の森の美術展 たおやかなまなざし」
池田記念美術館、新潟
- 2021 「オリンピック終息宣言展2021」神楽坂セッションハウス、東京
- 2019 「遊・桜ヶ丘 現在進行形 野外展2019」
ゆう桜ヶ丘ギャラリー、東京
- 2014 「CONSTELLATION 2014—星座的布置展」
上野の森美術館、東京

木村 瞳

F

1987 埼玉県生まれ
2011 日本大学大学院芸術学研究科造形芸術専攻
博士前期課程 修了
2012 イメージフォーラム映像研究所 受講

個展

- 2024 「信じることのレッスン」藍画廊、東京
- 2021 「ある景色」ASK?P、東京
- 2020 「ムーンライト、ムーンライト」ASK?P、東京
- 2018 「やわらかな休息」ASK?P、東京
- 2016 「M/M/M」ASK?P、東京
- 2014 「おやすみのとき」ASK?P、東京
- 2012 「わたしのあかいろ」ASK?P、東京
- 2011 「木村瞳 展」ギャラリーなつかb.p、東京

主なグループ展・上映

- 2023 「1000 drawing vol.7-A」GALLERY KINGYO、東京
- 2022 「草を食む」アキバタマビ21、東京
「朝の輝き・夜の安らぎ」GALLERY KINGYO、東京
- 2019 「阿佐ヶ谷アートストーリー国際芸術祭 地域アート展」
阿佐ヶ谷区民センター第5和室、東京
- 2017 「落石計画 第10期 クロニクル 2008-2020 -痕跡と展開-」
旧落石無線局跡、北海道
- 2016 「ワンダーシード2016」トーキョーワンダーサイト渋谷、東京
「調布映画祭 第19回ショートフィルムコンペティション」
せんがわ劇場、東京
「ヤングバースベクティブ2016」
イメージフォーラム 寺山修司、東京
- 2015 「13 artists -日芸版画OB・OG展」ギャラリー川船、東京

Website: <https://kimuhi.wixsite.com/hitomi-kimura>